

ふるさと わがまち わが地域

大宮町延利 (のぶとし)

人口 116人
世帯数 48世帯
(平成27年11月現在)

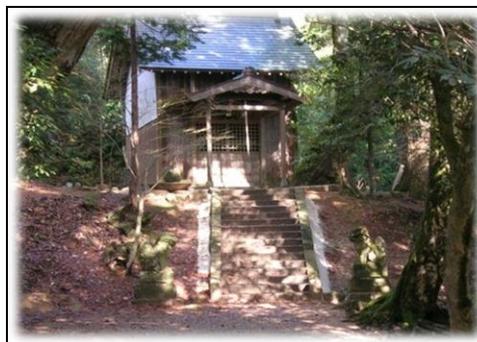


■ 延利の歴史・文化財

延利という地名は、室町時代の「丹後国郷保荘惣田数帳」(たんごのくに ごうほしょうそう でんすんちょう)にある「延利保」が初出となります。

当区は、延利遺跡において弥生時代前期から人々が生活していた痕跡が確認されています。古墳時代には、この地域で有数の密集度をほこる笠町古墳群が造られています。また、南北朝時代の貞和5年には、聖徳太子の弟とされる麿子親王(まるこしんのう)伝説が残る駒返しの滝地蔵(旧大宮町指定史跡)が造られており、古くから旧岩滝町へと抜ける交通路であったことをうかがわせます。

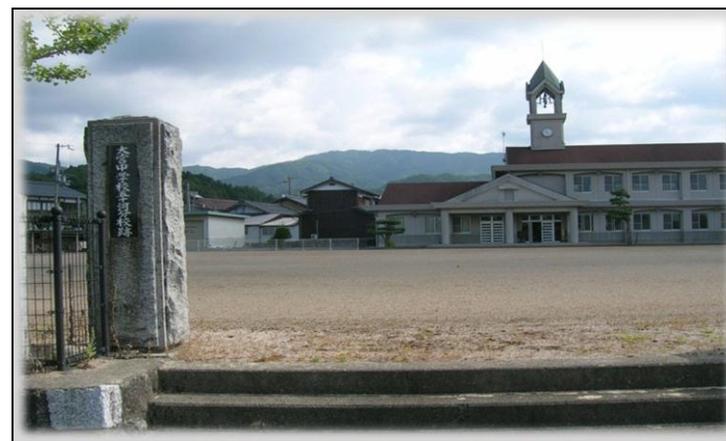
▼高森神社



▼長福寺



神社は、高森神社(写真上)お寺は、長福寺(曹洞宗、写真右上)があります。高森神社には、室町時代の狛犬があり、旧大宮町の指定工芸品に指定されてました。(現在は丹後郷土資料館に寄託)



延利のシンボル 五十河地区基幹集落センター

五十河地域の活性化を図るため診療所を併設して平成2年に完成。約100人収容の二階大広間や和室、調理実習室があります。屋根の塔屋の部分には美しいメロディを自動演奏するカリヨンが設置されています。この地はかつて旧五十河小学校、旧大宮中学校五十河分校、そして旧五十河村役場があった五十河地域の中心的な場所です。

延利村づくり委員会活動の紹介

延利村づくり委員会は平成10年に誕生しました。現在のメンバーは13人、ほとんどがサラリーマンです。誇ることが出来る延利村（のぶとしむら）をつくることを目標に、地域活性化のために様々な取り組みをしています

黒豆の枝豆栽培で元気づくり

黒豆の枝豆栽培を始めて12年め。10アールの土地に、6月の播種から定植、収穫と丁寧に管理をしています。収穫時期には、近所のおばさんたちに豆の選別をお願いしています。そして10月中旬府道横に設置した仮設テントで現地販売を行います。リピーターからの問合せも数多く、毎年好評であることから地域の元気づくりに役立っています。



紫峰米

▲五十河内山山系には、府内最大級のブナ林が約4haにわたり広がります。その内山山系の峰々が錦秋とともに日差しを受け美しく紫色に輝いて見えることから、その麓で生産されるお米を延利では「いかが紫峰米」と呼びます。食味ランキング特Aの丹後コシヒカリを代表する「いかが紫峰米」。このお米がおいしいのは、昼夜の温度差と広大なブナ林がある五十河内山山系から流れ出るミネラル豊富な水で作られたからです。もちろん、有機肥料の施肥や低農薬により、安心・安全にも心掛けています。

▼仮設テントの枝豆現地直売10月中旬の土・日曜日、午前8時30分～午後2時頃に販売（五十河簡易郵便局前）



▲転作田を活用して村づくり委員が力を合わせて栽培している黒豆畑



▲府道岩滝・網野線沿いにある駒返しの滝の看板



▲駒返しの滝

基幹集落センターから府道を旧岩滝町方面へ約2km行くと、左に看板があります。谷に降りていくと約20mの落差で岩の間を水が流れ、夏場は涼しさを感じます。駒返しの滝の名は磨子親王が丹後地方の鬼賊退治に向かったとき馬を返したという伝説に由来します。



▲京丹後市指定文化財の地蔵尊

看板から数十メートル下り、画面中央上 苔の中に・・・



▲駒返しの滝の水を使った水力発電施設

近年まで近くの民家で利用されていた施設を一部借用し看板の証明、防犯用カメラ等の電源に利用しています。